

アジアを掘る

ヨーロッパ・日本共同考古学会議2003

於京都、滋賀 12月11日・12日

声明文

ヨーロッパおよび日本の考古学者は、アジアの様々な地域において、長年に亘ってフィールドワークを行ってきた。こうした活動によって、実際の発掘成果ばかりでなく、フィールドワークでの技術的専門知識や新しいコンセプト、考古学研究における分析方法と理論がもたらされた。2003年の共同会議では、ヨーロッパおよび日本の専門家が一堂に会し、各国の関係機関間に連絡ネットワークが始動した。会議の締め括りとして参加者は、ユーラシアにおける調査地域を対象とした、ヨーロッパ - 日本間の永続的関係を築くという意味を表明した。

これは、恒久的な連絡委員会 (Europe/Japan Liaison Committee) によって遂行される。同委員会は、当面、2003年共同会議の参加者によって構成されるが、アジア地域の考古学調査研究における、ヨーロッパと日本の協力関係の向上に関心を持つ全ての研究者に開かれる。同委員会は、京都大学人文科学研究所との協働のもと、イタリア国立東方学研究所 (Italian School of East Asian Studies) とフランス極東学院 (Ecole Française d'Extrême-Orient) 京都支部に設置される。次回共同会議は、2005年末に開催される予定である。

これとは別に執行委員会が組織され、以下の事柄を遂行する。

- ・個人、機関からの支援を得るため、ヨーロッパと日本の双方において広報を行う。
- ・必要に応じて、研究対象とすべき地域を確定し、西アジア、北アジア、南アジア、中央アジア、東アジアの各地域ごとに研究者連絡網を作成する。
- ・定期的な (2, 3年ごと) 共同会議を開催し、連携のための確固たる枠組みを形成する。
- ・調査の資金ベース底上げのためのアイデアを募る。

また長期的目標として、以下の事柄を行うものとする。

- ・双方における考古学研究活動の情報を幅広く流通させる。(ニューズレターや電子掲示板システムを通じて)
- ・アジアにおける考古学調査を遂行するため、参加者の専門知識や関心に従って、当事国の専門家に協同作業の提案を行う。
- ・調査対象地域の各機関との交渉にかかわる知識と情報の共有をはかる。
- ・若い研究者が、アジア考古学における調査経験やトレーニングを積む機会をもうける。